

Campus

全代会の広報誌

No.233
2025
Jan

特集・台湾大学との交流事業
Tsuku・Koi
活動報告



Tsuku・Koi は全大会が主催する留学生向け新歓イベントで、令和 6 年 9 月 30 日に開催された。本イベントは留学生からの「春と同じような新歓祭を秋にも実施してほしい」という意見を参考に実施し始めたもので、今年で 3 回目である。

今年度はホール企画に 3 団体、ブース企画に 17 団体参加した。企画者、留学生を合わせて約 3 0 0 人ものが交流を楽しんだ。この特集では参加して感じたことを落語研究会代表の河本樹彦さん（人文学類 2 年）に参加して感じたことを、企画者である国際特別委員会の相馬弥生（情報科学類 2 年）に Tsuku・Koi にかけた思いを聞いた。（榎本）

参加団体として

Tsuku・Koi はブースとホールの 2 つの出店形式がある。落語研究会は落語文化の紹介と新会員勧誘を目的に今回参加し、ブースではチラシとポスターを配り、ホールでは『時そば』という演目を披露した。「演目に前説を設け、落語とは何か説明した。また演目の中に英語や中国語を取り入れることで、日本語がわからない留学生でも演目の内容が分かるようにするなど、工夫を凝らした」と河本さんは語る。

河本さんを含めた会員たちは、落語を全く知らない留学生に対して、どのように落語を説明すればいいのか、また落語そのものの雰囲気を残しつつ、内容を理解できるように英訳するにはどうすればよいのか悩んだそうだ。

Tsuku・Koi で披露した演目での手ごたえを聞くと、河本さんは「悩み、工夫を凝らしたかいもあって、以前留学生たちの前で落語を披露した時よりもいい感触であった」と答えた。

また河本さんは取材の中で「来年の参加の際には今年の反省を生かしたい」と語った。（北口）



取材に答える河本樹彦さん

企画者として

今年の Tsuku・koi プロジェクトリーダー相馬は「留学生や参加団体からの『ありがとう』に報われたイベントだった。準備に多くの時間を割いてきた今までの頑張りがあったため、その喜びもひとしおだった」と語る。

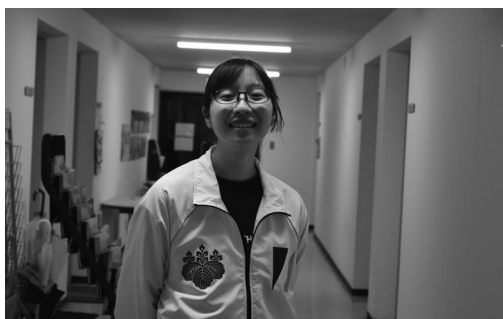
イベントを運営する上で大変だったことについて、「参加団体との連絡に苦労した。特に夏季休業中には連絡が滞りがちになり、準備がなかなか進まなかった。また、留学生団体との連絡では英語も必要だったため、連絡だけでもかなりの時間がかかった」と話した。準備が大変だったこのイベントだが、「イベント運営のノウハウを身につけられた。留学生が楽しむ様子が見られ、自分自身もイベントを楽しむことができた」と語った。

実際に運営してみると、さまざまな改善点が上がってきたようで「イベント終盤に向かうにつれて、客足が遠のいてしまった。今年の参加団体のほとんどが留学生団体だったため、全学的な広報でそれ以外の団体も増やせたら、さらに良いイベントになっただろう」と話す。

「留学生には良い思い出にしてほしい。入学後、初めて参加するイベントであるため、『楽しかった!』と思ってもらいたい。来年度以降も今年の反省点を踏まえた上で、より良い新歓イベントにしていきたい」Tsuku・Koi にかける熱い思いを語った。（小野）



Tsuku・Koi に参加する全大会構成員



取材に答える相馬弥生

Tsuku・Koi を終えて



代表同士の記念撮影

交流についての概要

令和 6 年 8 月 6 日、筑波大学筑波キャンパスにて、国立台湾大学の学生らと全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（以下、全大会）構成員との交流会が開催された。

全大会からは議長団を中心とするメンバーで、台湾からの学生に宿舎や食堂などを案内し、和装や折り紙といった日本文化の紹介を行った。（亀山）

学内見学

グローバルヴィレッジや平砂宿舎、全大会室の見学をしたのち、1 A 棟食堂「TSUKUBA TABLE」で昼食をとりました。大学構内を歩きながら、全大会構成員と国立台湾大学の学生らが和やかに歓談していました。学内における自転車の交通量の多さに国立台湾大学の学生らが驚く場面もあり、互いの文化の理解という面で非常に有意義なものとなりました。（寄稿…2 年 駒谷）

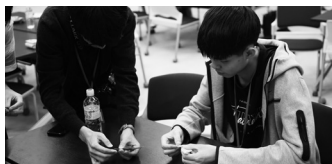


学内について説明する様子

折り紙

日本文化の体験として折り紙を折る機会を設けました。あらかじめ全大会構成員が折り紙で鶴や手裏剣、花やくす玉などたくさんの作品例を作り、当日机の上に並べたところ、国立台湾大学の学生らは興味深そうに作品例を見ていました。折り紙に初めて触れるとは思えないほど飲み込みが早く、時間がかかると想定していた鶴も、あつという間に完成させていました。立体的なバラや、完成後に跳ばして遊ぶことのできるカエルが特に人気を集めました。

全大会構成員も英語やジェスチャーを用いて折り方を説明しながら、一緒に夢中で折り紙を楽しみました。比較的短時間の企画でしたが、予想以上に楽しんでもらえ、国立台湾大学の学生らは笑顔で作品を持ち帰りました。（寄稿…2 年 梅基）



折り紙を一緒に折る様子

国立 台湾大学 との交流

集合

国立台湾大学の学生らは 6 日 10 時ごろ、つくば駅に到着した。近藤拓未（情報科学類 3 年）議長をはじめとした全大会構成員は駅ホームで国立台湾大学の学生らを出迎え、先の予定にある学内探検やデイスカッション、日本文化体験において、国立台湾大学の学生とともに、大学へと向かった。（篠崎）



つくば駅で集合している様子

デイスカッション

デイスカッションでは互いの学生組織の構造や活動内容について紹介し、意見を交わしました。主な議題としては、「学生のメンタルヘルスに対する課題と対応について」と「2024 年 9 月に開校となった筑波大学マレーシア分校における学生組織のあり方について」の 2 点が取り上げられ、両校の参加者が大学の現状を理解し、積極的な情報と意見の交換を行いました。（寄稿…3 年 宮沢）



意見交流の様子

和装体験

国立台湾大学の学生に日本文化紹介として和装体験を行いました。国立台湾大学の学生たちは今までなじみのなかった袴や浴衣といった和服に興味深そうな様子で見たり触ったりしていました。和装体験では、着付けに心得がある全大会構成員によって、一文字結びや貝の口結びといったさまざまな帯の結び方がなされました。和服を着終わったあとは、双方の学生で写真撮影をしました。国立台湾大学の学生らは和装に似合うポーズをとり非常に楽しんでいる様子でした。（寄稿…4 年 山口）

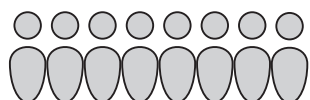


和装体験時の記念撮影

クラス連絡会とは

変えよう

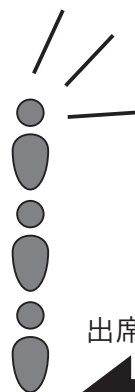
クラス代表者会議



出席



クラス連絡会



出席



知ろう

教職員



皆さんは「クラス連絡会」を知っていますか？クラス連絡会は略してクラ連会と呼ばれており、学生から集められた意見を教職員の方々と議論する場です。学類ごとに年2回開催され、学生が日頃から抱えている生活に関する諸問題や、カリキュラムに対する希望などさまざまな議題を取り扱います。

クラス連絡会の出席者はクラス代表者会議（以下、クラ代会）の構成員（以下、クラ代）と各学類の教職員などです。クラ代はクラス連絡会の前に各学類の学生にアンケートを配布し結果を整理したり、その結果をもとに資料を作成したりしています。クラ代会は皆さんの意見を募集しています。ぜひ、積極的に意見を伝えてより良い学生生活を実現しましょう。

Campus

全大会の広報誌 Campus233号

2025年1月10日発行

編集長 龍 茂花

発行人 榎本 陽子

表紙デザイン 山下 モカ

編集委員 大谷 美琴 川島淳一郎 篠崎 健太
岡本 翔太 榎本 陽子 鈴木 文麿
小野さくら 龍 茂花 北口 遥
安東 和光 亀山 杏佳 畠中 真
中野 佑 田沼結美子 渡邊 三姫
山下 モカ 副島 祐生

発行 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
広報委員会

<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/>

(publicity@zdk.tsukuba.ac.jp)

全代会活動報告

第2回意見聴取会

日時…令和6年9月25日 18時30分

場所…3A204・Microsoft Teams

出席…全代会構成員

学園祭実行委員

議題「学園祭実行計画書（追加提出分）の承認について」

第4回本会議

日時…令和6年10月2日 18時30分

場所…3A204・Microsoft Teams

出欠…出席45

学園祭実行委員

議題「学園祭実行計画書（追加提出分）の承認について」

【結果】賛成45、保留0、反対0

議案は全会一致で可決され、学生生活課へ学園祭実行計画書が提出された。